

ト爲ルベキ者ノ範圍ヨリ之ヲ除外ス

- 一 多額ノ收入アル者
 - 二 貧困ノ爲法令ニ依ル救護ヲ受クル者
 - 三 其ノ他地方長官ニ於テ特別ノ事由アリト認めタル者
- 前項第一號ニ規定スル者ノ範圍ハ地方ノ事情ヲ參酌シテ地方長官之ヲ定ム

第七十一條 地方長官國民健康保險法第十三條ノ指定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スベシ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ地區
- 四 組合員ト爲ルベキ者ノ範圍ヨリ除外スル者
- 五 指定ノ年月日

第七十二條 國民健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベキ事項ガ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ申請書ニ其ノ會議錄ノ寫ヲ添附スベシ
認可申請ヲ爲スベキ事項ガ理事專決シタルモノナルトキハ申請書ニ專決ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第七十三條 組合ノ地區又ハ組合員ノ範圍ノ變更ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニハ規約變更後ニ於ケル事業計畫書ヲ添附スベシ

第七十四條 保険料變更ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニハ算出ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添附スベシ

第七十五條 規約變更ノ認可アリタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ公示スベシ

第七十六條 事業報告及決算ハ年度經過後四月以内ニ組合會ノ認定ニ付スベシ
事業報告及決算ハ組合會ノ認定ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ
前二項ノ規定ニ依リ事業報告ヲ組合會ノ認定ニ付シ又ハ地方長官ニ届出ヅル場合ニ於テハ之ニ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目錄ヲ添附スベシ

第七十七條 組合ハ事業報告ニ付組合會ノ認定ヲ經タルトキハ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目錄ト共ニ之ヲ公示スベシ

第七十八條 組合ハ被保險者臺帳、歳入簿、歳出簿及現金出納簿ヲ備フベシ

第七十九條 組合ハ毎月ノ事業狀況ヲ翌月十五日迄ニ地方長官ニ報告スベシ

第八十條 組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムベシ

第八十一條 理事長及理事就職、退職又ハ死亡シタルトキハ組合ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届

出ツベシ

第八十二條 本章中地方長官トアルハ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合ニ付テハ之ヲ厚生大臣トス

第二章 國民健康保險組合聯合會

第八十三條 組合聯合會設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 規約

二 事業計畫書

第八十四條 組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合聯合會ナル文字ヲ用フベシ

國民健康保險組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第八十五條 初年度ノ收入支出ノ豫算ハ組合聯合會ヲ設立セントスル組合及組合ノ事業ヲ行フ法人

共同シテ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請ハ組合聯合會設立ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スベシ

第八十六條 第六條、第十條、第四十四條、第四十九條、第五十條、第五十二條乃至第五十六條、

第五十八條乃至第六十九條、第七十二條、第七十五條乃至第七十八條及第八十條乃至第八十二條ノ規定ハ組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第三章 國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人

第八十七條 地方長官ハ國民健康保險法第五十四條ニ規定スル法人ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノ

ニ限リ同條ノ許可ヲ爲スコトヲ得

一 特別ノ事由ナキ限リ一町村ノ區域ヲ其ノ地區トスルモノ

二 事業ノ成績及收支ノ狀況良好ニシテ且醫療ニ關スル施設ノ適當ナルモノ
前項ノ許可ハ地方ノ事情及地區内世帯主ノ加入狀況等ヲ參酌シテ之ヲ爲スベシ

第八十八條 國民健康保險法第五十四條ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 定款又ハ規約ノ變更ニ關スル總會又ハ總代會ノ會議録ノ寫

二 國民健康保險組合ノ事業ヲ行フコトニ關シ必要ナル規程（以下國民健康保險規程ト稱ス）

三 事業計畫書

四 保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面

五 事業及收支ノ狀況ニ關スル書類

六 醫療ニ關スル施設ノ内容ヲ記載シタル書類

第八十九條 國民健康保險規程ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 被保險者タルベキ者ノ範圍

國民健康保險法施行規則

- 二 被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項
- 三 保險給付ニ關スル事項
- 四 保險料ニ關スル事項
- 五 其ノ他重要ナル事項

第九十條 國民健康保險法第五十四條ノ許可ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ告示スベシ

- 一 法人ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 許可ノ年月日

第九十一條 組合ノ事業ヲ行フ法人ノ其ノ事業ニ關スル收入支出ハ他ノ事業ニ關スル會計ト區分シ之ヲ經理スベシ

第九十二條 組合ノ事業ヲ行フ法人ノ其ノ事業ニ關スル左ニ掲グル事項ハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算
- 三 收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
- 四 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分

五 借入金(一時借入金ヲ除ク)

六 國民健康保險規程ノ變更

七 其ノ他重要ナル事項

前項第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ當該法人ノ定款又ハ規約ノ變更ニ關スル議決ノ例ニ依ルベシ
第一項第一號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第九十三條 前條第一項各號ニ掲グル事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ總會若ハ總代會成立セザルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ定款又ハ規約ノ定ムル所ニ依リ理事之ヲ專決スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ專決ヲ爲シタルトキハ理事ハ次ノ總會又ハ總代會ニ之ヲ報告スベシ

第九十四條 組合ノ事業ヲ行フ法人ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ組合ノ事業ヲ廢止スルコトヲ得ズ

第九十五條 組合ノ事業ヲ行フ法人前條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經テ地方長官ニ申請ヲ爲スベシ

前項ノ許可申請書ニハ理由書及許可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル財産目錄ヲ添附スベシ

第九十六條 地方長官組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ第九十四條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ廢止ノ許可ヲ爲シ又ハ國民健康保險法第四十五條ノ規定ニ依リ同法第五十四條ノ許可ヲ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第九十七條 組合ノ事業ヲ行フ法人國民健康保險法第四十五條ノ規定ニ依リ同法第五十四條ノ許可ヲ取消サレタルトキ又ハ其ノ事業ヲ廢止シ若ハ解散シタルトキハ當該法人ノ代表者又ハ清算人ハ組合ノ事業ニ關スル收支ノ計算及財産處分ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第九十八條 第四條、第五條、第七條、第十一條乃至第十六條、第四十九條、第五十二條乃至第五十九條、第七十二條及第七十四條乃至第八十二條ノ規定ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ其ノ事業ニ付之ヲ準用ス但シ第四條、第五條及第七條中發起人トアルハ當該法人トシ第十四條、第四十九條、第五十五條、第五十八條、第七十四條及第七十五條中規約トアルハ國民健康保險規程トス

附則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎國民健康保險國庫補助金交付規則 (昭和十三年六月二十二日 厚生省令第一二二號)

第一條 國民健康保險法第四十七條第一項ノ規定ニ依ル國民健康保險組合及國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對スル國庫補助金ハ本令ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ毎年四月三十日迄ニ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル各月末ニ於ケル被保險者ノ員數ノ平均數ヲ具シ厚生大臣ニ申請ヲ爲スベシ

年度中ニ組合ヲ設立シ又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人其ノ事業ヲ開始シタル爲前項ノ申請ヲ爲スコト能ハザリシトキハ組合ノ設立又ハ組合ノ事業ノ開始後一月以内ニ被保險者ノ員數ヲ具シテ申請ヲ爲スベシ

第三條 組合員ノ資力乏シキ爲特ニ補助金ノ増額交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ年一月ヨリ十二月ニ至ル毎月末ニ於ケル被保險者ノ員數ノ平均數ヲ具シ申請ノ理由ヲ明ニスベキ書類ヲ添附シテ翌年一月三十一日迄ニ厚生大臣ニ申請ヲ爲スベシ

第四條 災害ノ爲又ハ流行病、地方病若ハ傳染病流行ノ爲著シク保險給付費ノ増嵩ヲ來シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ補助金ノ増額交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ年一月ヨリ十二月ニ至ル期間ノ事項ニ關シ交付ヲ受ケントスル金額及其ノ事由ヲ具シ翌年一月三十一日迄ニ厚生大臣ニ申請ヲ爲スベシ

第五條 組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ補助金ヲ交付セズ、補助金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

一 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二 不當ニ補助金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスルノ所爲アリタルトキ

國民健康保險法施行規則

- 三 事業ノ經營著シク不適當ナルトキ
- 四 被保險者ノ員數著シク減少シタルトキ

第六條 組合解散シ又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人解散若ハ其ノ事業ヲ廢止シタル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

附則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並んでいる。これは施行規則の本文部分であり、第六條の具体的な規定や、附則の趣旨説明などが含まれていると思われる。）

船員保險法

船員保險法

(昭和十四年四月六日
法律第七三號)

第一章 總 則

- 第一條** 船員保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病、負傷、老齡、廢疾、脫退又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス
- 第二條** 船員保險ハ政府之ヲ管掌ス
- 第三條** 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對償トシテ船舶所有者ヨリ受クル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ
- 第四條** 給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條** 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條** 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及療養費、傷病手當金、廢疾手當金又ハ死亡手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、廢疾年金、脫退手當金又ハ第三十六條、第三十七條、第四十二條若ハ第四十九條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利

ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 船員保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシテ其ノ雇傭スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他船員保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ

第十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者トアルハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶代理人、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人トス

第十一條 船舶ガ滅失又ハ沈没シタル際現ニ其ノ船舶ニ乗組ム被保險者又ハ其ノ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ滅失又ハ沈没ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間滿了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス
船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ船舶

航行中行方不明ト爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナラザルトキニ之ヲ準用ス

第十二條 保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徴收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徴收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ
第十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徴收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十五條 國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル船舶ニ乗組ム船員ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本法中町村トアルハ町村制ヲ實行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 被保險者

第十七條 船員法第一條ニ規定スル帝國臣民タル船員ニシテ本法施行地ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニ乗組ムモノハ船員保險ノ被保險者トス但シ左ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 船舶所有者ニ雇傭セラレザル者
- 二 官吏又ハ待遇官吏(俸給給料ヲ受ケザル者ヲ除ク)
- 三 前二號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十八條 被保險者ハ船舶ニ乗組ミタル日、前條各號ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ取得シタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十九條 被保險者ハ死亡シタル日、船舶ニ乗組マザルニ至リタル日、第十七條各號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 十年以上十五年未満被保險者タリシ者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ老齡又ハ脫退ニ關スル保險給付ニ限リ之ヲ爲スモノトス

第二十一條

前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間トヲ合算シテ十五年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 保險給付

第一節 總則

第二十二條

被保險者タリシ期間ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ終ル但シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ノ半月トシテ之ヲ計算ス

十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ脫退手當金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ計合算ノ基礎ト爲リタル期間ハ之ヲ合算セズ

前項但書ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 養老年金及癯疾年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第二十五條 政府ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二十六條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第二節 療養ノ給付及傷病手當金

第二十八條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ヲ爲ス但シ被保險者ノ資格喪失前ノ疾病又ハ負傷ニ因リ發シタル疾病ヲ除クノ外被保險者ノ資格喪失後ニ發シタル疾病又ハ負傷ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ報酬年額千八百圓ヲ超ユル船舶職員、被保險者ノ資格喪失當時報酬年額千八百圓ヲ超ユル船舶職員タリシ者及勅令ヲ以テ指定スル者ノ疾病又ハ負傷ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ヲ診療所ニ收容スルコトヲ得

第二十九條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ申請アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第三十條 被保險者タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付被保險者ノ資格喪失當時ノ報酬日額ノ百分ノ六十二ニ相當スル金額ヲ支給ス

一 療養ノ給付ヲ受クルトキ

二 船員法第十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ疾病又ハ負傷ニ關シ扶助ヲ受クルトキ

第二十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 診療所ニ收容シタル被保險者タリシ者ニ對シテ支給スベキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第三十二條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其

ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ
主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ尙六月以内繼續シテ
療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ保險給付ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル期
間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル

傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養ノ給付ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リ
タルトキハ之ヲ支給セズ

第三十三條 船員法第十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ扶助又ハ手當ノ支給ヲ受
クル被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クル
コトヲ得ベキ期間經過後療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ支給ヲ開始ス

第三節 養 老 年 金

第三十四條 十五年以上被保險者タリシ者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五
十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ期間十五年以上十六年未満ニ對シ被保險者タリシ全期
間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス
毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル

金額ヲ加ヘタル金額トス

被保險者タリシ期間四十年ヲ超ユル者ニ支給スベキ養老年金ノ額ハ之ヲ被保險者タリシ期間四十
年トシテ計算ス

第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總
額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザル時ハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十七條 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合
ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシ
テ其ノ遺族ニ支給ス

第三十八條 傷病手當金又ハ船員法第十七條若ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ手當ノ支
後給ヲ受クル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間養老年金ノ支給ヲ停止ス

第三十九條 養老年金ノ支給ヲ受クル者被保險ト爲リタル時ハ其ノ月ヨリ養老年金ノ支給ヲ停止
ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ
ハ前後ノ被保險者タリシ期間ヲ合算シテ養老年金ノ額ヲ改定ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ額ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ額ガ従前ノ養老年金ノ額ヨリ少ナキ時
ハ従前ノ養老年金ノ額ヲ以テ改定養老年金ノ額トス

第四節 癱疾年金及癱疾手當金

第四十條 被保險者ノ資格喪失前六年間ニ三年以上被保險者タリシ者ノ資格喪失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ガ勅令ノ定ムル期間内ニ治愈シタル場合又ハ法癒セザルモ其ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル程度ノ癱疾ノ状態ニ在ル者ニハ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄癱疾年金ヲ支給シ又ハ一時金トシテ癱疾手當金ヲ支給ス

第四十一條 癱疾年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第三十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 癱疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

一 被保險者タリシ期間ガ十五年未滿ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癱疾年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金及被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ノ合算額 (被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ

十三月分ニ止ム)ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二 被保險者タリシ期間ガ十五年以上ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癱疾年金ノ總額ガ癱疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第四十三條 養老年金及癱疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス

第四十四條 癱疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ癱疾年金ヲ受クル程度ノ癱疾ノ状態ニ該當セザルニ至リタルトキハ爾後癱疾年金ヲ支給セズ

第四十五條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ癱疾手當金ヲ支給セズ

第五節 脱退手當金

第四十六條 三年以上十五年未滿被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年六月ヲ經過シタルトキハ脱退手當金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ癱疾手當金ヲ受クル權利ヲ有スルトキハ一年六月ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給ス

第四十七條 脱退手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル但シ癱疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ癱疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 被保險者タリシ期間三年以上四年未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月半分ニ相當スル金額

二 被保險者タリシ期間四年以上九年未滿ナル者ニ對シテハ其ノ期間三年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ半月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

三 被保險者タリシ期間九年以上ナル者ニ對シテハ其ノ期間八年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ規定ニ依リ其ノ期間八年以上九年未滿ノ者ノ支給ヲ受クベキ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

第四十八條 廢疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脫退手當金ヲ支給セズ

第四十九條 廢疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十四條ノ規定ニ依リ廢疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル廢疾年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脫退手當金ノ額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第六節 死亡手當金

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ三年以上被保險者タリシトキハ其ノ遺族ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三月分ニ相當スル死亡手當金ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ百圓ニ滿タザルトキハ之ヲ百圓トス

一 被保險者ガ死亡シタルトキ

二 被保險者タリシ者ガ其ノ資格喪失後三月以内ニ死亡シタルトキ

三 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付ヲ受クルモノガ死亡シタルトキ

第七節 保險給付ノ制限

第五十一條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタル時ハ療養ノ給付又ハ傷病手當金、廢疾年金、廢疾手當金若ハ死亡手當金ノ支給ヲ爲サズ第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ死亡手當金ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給ヲ爲サズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ヲ爲ス

第五十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ闘争、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ、故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷病手當金、廢疾年金又ハ廢疾手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十三條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ支給ヲ爲サズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
 - 二 本法施行地外ニ在ルトキ
 - 三 船舶内ニ在ルトキ
 - 四 矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ入院セシメラレタルトキ
 - 五 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ
 - 六 健康保險又ハ職員健康保險ニ於テ之ニ相當スル保險給付ヲ受クルトキ
- 他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ診療所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

第三十一條ノ規定ハ前項ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス

第五十四條 正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シテハ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第五十六條 療養ノ給付又ハ傷病手當金若ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコトヲ得

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シテハ療養ノ給付ノ全部若ハ一部又ハ傷病手當

金、廢疾年金若ハ廢疾手當金ノ全部若ハ一部ノ支給ヲ爲サザルコトヲ得

第五十七條 養老年金又ハ廢疾年金ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及廢疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第四章 費用ノ負擔

第五十八條 國庫ハ療養ノ給付及傷病手當金ヲ除クノ外保險給付ニ要スル費用ノ五分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ船員保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十九條 政府ハ船員保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條 被保險者及被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十一條 船舶所有者ハ其ノ雇傭スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十二條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第五章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第六十三條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ第二次船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第六十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十二條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二次船員保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第六十六條 本法ニ規定スルモノノ外船員保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴訟法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第一百五十八條第二項及第一百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 罰 則

第六十八條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 船舶所有者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 雜 則

第七十一條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 關東州船員令ニ依ル船員タリシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依ル船員ト爲リタル場合ノ保險給付ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ

得

附則

本法施行ノ期日ハ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定竝ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

勅令ヲ以テ指定スル日前十五年間ニ於テ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル船員トシテ五年以上船舶ニ乗組ミタル者ガ四十五歳ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ同日前十五年間ニ於テ船舶ニ乗組ミタル期間ト被保險者タリシ期間トヲ合算シ十五年以上ニ達スルモ十五年以上被保險者タリシ者ニ非ザルトキハ其ノ者ニ對スル脫退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十六條及第四十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

職員健康保險法

職員健康保險法

(昭和十四年四月六日
法律第七二號)

第一章 總 則

第一條 職員健康保險法ニ於テハ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ト同一ノ世帯ニ屬シ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者(以下世帯員ト稱ス)ノ疾病又ハ負傷ニ關シ保險給付ヲ爲スコトヲ得

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對價トシテ受クル俸給、給料又ハ賃金及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

俸給、給料又ハ賃金ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラズ時效中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 職員健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第七條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第八條 保險者又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一條第二項ノ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ世帯員又ハ世帯員タリシ者ノ戶籍ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他職員健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬並ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書

類其ノ他ノ險查ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ行政官廳ニ委任スルコトヲ得

第十二條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料及延滞金ヲ徵收ス

第十三條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ職員健康保險組合ガ保險者ナル場合ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ市町村ニ對シ處分ヲ請求スルモ市町村ガ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザル場合ニ限ル

前項但書ノ規定ニ依リ職員健康保險組合ガ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

保險者ガ第一項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ヲ請求シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十六條 本法ハ國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ使用セラルル者ニ之ヲ適用セズ

第十七條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 被保險者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業所ニシテ市又ハ主務大臣ノ指定スル町村（以下指定町村ト稱ス）ニ在ルモノニ使用セラルル者ハ職員健康保險ノ被保險者トス

- 一 物ノ販賣ニ關スル事業
- 二 金融又ハ保險ニ關スル事業
- 三 物ノ保管又ハ賃貸ニ關スル事業
- 四 媒介周旋ニ關スル事業
- 五 集金、案内又ハ廣告ニ關スル事業

六 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項第一號乃至第五號ニ掲グル事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ職員健康保險ノ被保險者トセズ

- 一 第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ニ使用セラルル者
- 二 健康保險ノ被保險者及健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ健康保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得ル者
- 三 一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル者
- 四 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十九條 健康保險ノ被保險者タル職員ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ職員ヲ事業所毎ニ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ認可アリタル時ハ其ノ事業所ニ使用セラルル職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス
第十八條第三項第三號及第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラルル者ヲ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

- 一 第十八條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル事業ノ事業所ニシテ市又ハ指定町村以外ノ地ニ在

ルモノ

- 二 第十八條第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ニシテ市又ハ指定町村ニ在ルモノ
 - 三 前二號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ノ事業所
- 第十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 第條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル者ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第十八條第三項第二號乃至第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第十八條ニ規定スル事業所ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ事業所ニ付第二十一條ノ認可アリタルモノト看做ス

- 一 第十八條第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ト爲ルニ至リタルトキ
- 二 市又ハ指定町村以外ノ地ニ在ルニ至リタルトキ
- 三 第二十一條第一項第三號ノ規定ニ依リ指定スル事業ノ事業所ト爲ルニ至リタルトキ

第二十四條 第十八條、第二十條及第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十八條第三項第二號乃至第四號、第二十條第二項若ハ第二十二條第二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第二十五條 第十八條、第二十條及第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十八條第三項第二號乃至第四號、第二十條第二項若ハ第二十二條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十六條 第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ル受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタリ日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十七條 第二十五條ノ規定ニ依ル被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前二月以上引續キ被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十八條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十五條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 保 險 者

第二十九條 職員健康保險ノ保險者ハ政府及職員健康保險組合トス

第三十條 政府ハ職健康保險組合ノ組合員ニ非ザル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十一條 職員健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十二條 職員健康保險組合ハ事業主及其ノ事業所ニ使用セララル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス
職員健康保險組合ハ法人トス

第三十三條 一又ハ二以上ノ事業所ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ職員健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ職員健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第三十四條 職員健康保險組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
二以上ノ事業所ニ付職員健康保險組合ヲ設立セントスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業所ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十五條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十九條第一項又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ職員健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルベキ者トス

第三十六條 主務大臣ハ一又ハ二以上ノ事業所ニ付第十八條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上

ヲ使用スル事業主ニ對シ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十八條 職員健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十九條 職員健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業所ニ使用セララル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第四十條 職員健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第四十一條 主務大臣ハ職員健康保險組合ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 職員健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員ガ保險給付其ノ他ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ主務大臣ハ官吏其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ職員健康保險組合ノ負擔トス

第四十三條 主務大臣ハ職員健康保險組合ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、規約若ハ主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散

ヲ命ズルコトヲ得

第四十四條 解散ニ因リテ消滅シタル職員健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十五條 本法ニ規定スルモノノ外職員健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他職員健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 同時ニ二以上ノ事業所ニ使用セララルル被保險者ノ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付及保健施設

第四十七條 被保險者ガ其ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養ヲ受ケタルトキハ療養費ヲ支給ス

前項ノ療養費ヲ支給スベキ療養ノ範圍竝ニ療養費ノ額及支給方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
保險者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養費ノ支給ニ代ヘテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ヨリ費用ノ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第四十八條 療養費ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ療養ヲ始メタル日より起算シ六月ヲ經過シタル後ノ療養ニ付テハ之ヲ支給セズ

主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ尙六月以内ノ療養ニ付繼續シテ療養費ヲ支給スルコトヲ得但シ其ノ療養ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル期間引

續キ被保險者タリシ者ニ限ル

第四十九條 被保險者ガ療養ノ爲引續キ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日より起算シ三月ヲ經過シタル日より其ノ後ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ日給ヲ受ケル被保險者ニ付テハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日より起算シ十日ヲ經過シタル日より之ヲ支給ス

前項ノ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得
保險者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金ノ支給ノ待期ヲ短縮シ又ハ廢スルコトヲ得

第五十條 傷病手當金ノ支給期間ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シテハ三月ヲ以テ限度トス但シ日給ヲ受ケル被保險者ニ付テハ六月ヲ以テ限度トス

第四十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養費ノ支給ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第五十一條 被保險者ガ死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ報酬月額ノ一月分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ三十圓ニ滿タザ

ルトキハ之ヲ三十圓トス

被保險者ガ死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受タベキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十二條 被保險者ガ分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十三條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得
産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スベキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十四條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非ザレバ之ヲ爲サザルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セズ

第五十六條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル被保險者

ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得但シ被保險者ノ資格喪失ノ日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ場合ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得ザルモノト爲スコトヲ得

第五十七條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付

ヲ受ケタル者ガ其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日後三月以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後三月以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第五十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ之ヲ準用ス

第五十八條 被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ベカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十九條 前三條ノ規定ニ拘ラズ被保險者タリシ者ガ健康保險又ハ船員保險ノ被保險者ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險給付ヲ爲サズ

第六十條 保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定スル保險給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ベキ期間勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出

產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セズ

第六十二條 前條ニ掲グル者ガ其ノ受クルコトヲ得ベカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハザリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徵收ス

第六十三條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ保險給付ヲ爲サズ

第六十四條 被保險者ガ鬪爭、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十五條 被保險者又ハ被保者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ其ノ期間ニ係ル保險給付ハ之ヲ爲サズ

- 一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
- 二 本法施行區域外ニ在ルトキ
- 三 矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ入院センメラレタルトキ
- 四 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ診療所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養費ヲ支給セズ

第四十九條 第二項及第五十三條第二項ノ規定ハ前項ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス
保險者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ第一項各號ノ一ニ該當スル場合ト雖モ第一條第二項ノ保險給付ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第六十六條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シ之ニ支給スベキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十七條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十八條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得
保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第六十九條 保險者ハ事故ガ第三者ノ行為ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第七十條 保險者ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

- 一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
- 二 健康診斷ニ關スル施設
- 三 保養ニ關スル施設
- 四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關スル施設

第七十一條 保險者ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ非ザル者ヲシテ保險者ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得

保險者ハ其ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第七十二條 第六十三條、第六十五條第一項及第二項、第六十八條並ニ第六十九條ノ規定ハ世帯員ニ之ヲ準用ス

第五十六條ノ規定ハ第一條第二項ノ保險給付ニ之ヲ準用ス

第五章 費用ノ負擔

第七十三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ職員健康保險事業ニ要スル費用ノ一部ヲ負擔ス

第七十四條 保險者ハ職員健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス
保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十六條 少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スベキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十七條 職員健康保險組合ハ第七十五條ノ規定又ハ前條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラズ其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スベキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十八條 被保險者ガ第六十五條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

第七十九條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十一條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ第二次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常

裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第八十二條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ職員健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

第八十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二次職員健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第八十四條 本法ニ規定スルモノノ外職員健康保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 審査ノ請求、訴ヲ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ヲ提起ニ付テハ民事訴訟法第一百五十八條第二項及第一百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰 則

第八十六條 正當ノ理由ナクシテ第十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シタルモノハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第九條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十九條 第八十七條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條 職員健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主ガ正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ヲ遲延シタル期間其ノ負擔スベキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十一條 職員健康保險組合ガ第四十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ保險給付、保健施設及費用ノ負擔ニ關スル規定並ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

お く が き

専賣局共済組合理則並に同施行規程には規定の疑義解説に關する處分例が非常に多い。規定の運用に當つて是等の處分例を全部残らず呑み込んで過ちなくやつて行く事は容易でない。確信を得る爲には古い通牒書類を引き出して見なければならぬ。然るに處分例は時を異にして幾回にも發せられてゐる爲に、一々之を繰り返して見出すことは却々煩瑣に堪へぬことであり、時には見落す虞れもある。又處分例中には規定又は處分例の改正に依つて自然消滅してゐるものもあり、當然字句を變更せねばならぬものも尠くないので執務上不便を感じる場合が多い。

今回本書を改編するのを機會に編纂方法を改めて、新らしい試として、例言にも書いてあるが、従前發せられた處分例を取捨整理し、分類して、現行規定運用上参考となるべきものと認むるもののみを關係條文の次に(註)として挿入した。こんな關係で規定改正の趣旨に關するものでも概して必要なしと認められたものは之を省略したのである。仍つて規定の沿革等を研究せられる場合は従前規定改正時等に發せられた通牒を其の儘一覽せられる必要がある。又(註)を参考に資せられるに當つては、規則又は施行規程の(註)のみでは完全でない。必ず其の條文に關聯する施行規程又は規則の關係條文並に其の條文の(註)を参照せられねばならぬ。尙健康保險關係の事務處理に當つては、健康保險法規並に該法規運用上主務省より發せられたる處分例を参照せられる必要のあることは云ふま

でもない。

本書は敍上の方針で編纂したのであるが、何分短時日の間に本務の傍ら寸暇を割いてまとめたものであるから、無理があり、處分例の取捨、分類に付ても全く編者の獨斷でやつた所が多いから、訂正を要すべき個所が相當ありはせぬか、又其の他の點でも拙速主義によつた爲過ちがなければ良いがと思つてゐる次第である。

希くば讀者諸彦より御氣付の個所を、大は編纂方法の改善方、(註)登載の可否と其れ等の脱落による不備等より、小は字句の過ち、活字の誤植に至る迄、細大洩らさず編者宛御教示を煩はして、更に次回改訂の際の完璧を期したいと念願致して居る次第である。

編者 識

昭和十四年九月二十日印刷
昭和十四年九月二十六日發行

昭和十四年九月二十日印刷
昭和十四年九月二十六日發行

發行人 阿知波嘉一
東京市大森區七ノ三七四

印刷人 杉田彌太郎
東京市麴町區麴町五ノ二

印刷所 杉田屋印刷所
東京市麴町區麴町五ノ二

發行所 東京市麴町區大手町 專賣協會

民國十一年十月二十六日

... 會 ...

142
757A

